

船舶事故調査報告書

令和2年9月9日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 佐藤 雄二（部会長）
 委員 田村 兼吉
 委員 岡本 満喜子

事故種類	衝突（波除堤）
発生日時	不明（令和元年9月28日 日出前～04時30分ごろの間）
発生場所	北海道函館港弁天町波除堤 函館港西副防波堤灯台から真方位158°1,250m付近 （概位 北緯41°47.1′ 東経140°42.3′）
事故の概要	プレジャーボート ^{しゅんよう} 春陽は、航行中、波除堤に衝突した。 春陽は、船長が死亡し、船首船底部に破口等を生じて沈没した。
事故調査の経過	令和元年9月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート 春陽、5トン未満 202-5325北海道、個人所有 8.30m(Lr)×2.42m×0.69m、FRP ディーゼル機関、132.39kW、平成9年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 71歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成5年3月19日 免許証交付日 平成29年10月4日 （令和5年8月7日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	本船 船首船底部に破口等、沈没（全損） 波除堤 衝突痕
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期 日出時刻：05時30分ごろ、常用薄明開始時刻：05時02分ごろ
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、令和元年9月28日日出前、函館港内のマリーナ（以下「本件マリーナ」という。）を出航し、同港内を航行中、弁天町波除堤に衝突した。 船長の家族は、04時30分ごろ、船長から本船が何かにぶつかって転覆しそうである旨の電話連絡を受けたものの、すぐに通話が切れ、船長に電話連絡をしたところ、数秒間水の流れる音が聞こえた

	<p>後、再び通話が切れたので、04時36分ごろ、海上保安庁に本事故の発生を通報した。</p> <p>本船は、本件マリナー付近で船首部を上にして半沈没状態となっていたところを、本件マリナーを出航した別のプレジャーボートの船長によって発見され、04時47分ごろ通報された。</p> <p>船長は、巡視艇及び巡視船搭載艇が来援して本船の操舵室から発見された後、救急車で北海道函館市内の病院に搬送され、医師により死因が溺水による窒息と検案された。</p> <p>本船は、陸揚げされた後、解撤された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図、写真1 本船、写真2 本船の船首船底部の損傷状況 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本件マリナーを出航する小型船舶は、函館港外に向かう際、弁天町波除堤付近にある函館港西防波堤南端の切り通しを日常的に使用していた。</p> <p>船長は、忙しい時期を除いて月に1回程度本船で釣りを行っており、その際、03時ごろから04時ごろの間に自宅を出発し、本船で釣りを行った後、12時ごろから15時ごろの間に帰宅していた。</p> <p>船長は、本事故当日、体調に異常はなかった。</p> <p>船長は、発見された際、黒色の上着と紺色のズボンを着用しており、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>本船は、現場調査時、操舵室内にGPSプロッターがあり、船長の救命胴衣が同室内の物入れに収納されていた。</p> <p>弁天町波除堤東端には、本船との衝突痕が残っていた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>本船は、函館港内を航行中、弁天町波除堤に衝突したものと考えられるが、船長が本事故で死亡しており、目撃者がいないことから、衝突に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長の死因は、溺水による窒息であった。</p> <p>本船は、弁天町波除堤に衝突し、船長が船長の家族に連絡した後、本件マリナー付近で沈没しているのを発見されたことから、本件マリナーに帰航中に船首船底部の破口から浸水して沈没したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、本船が函館港内を航行中、弁天町波除堤に衝突したものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間、港内を航行する際は、目視及びGPSプロッターを併用し

	て見張りを適切に行うこと。
--	---------------

付図1 事故発生場所概略図

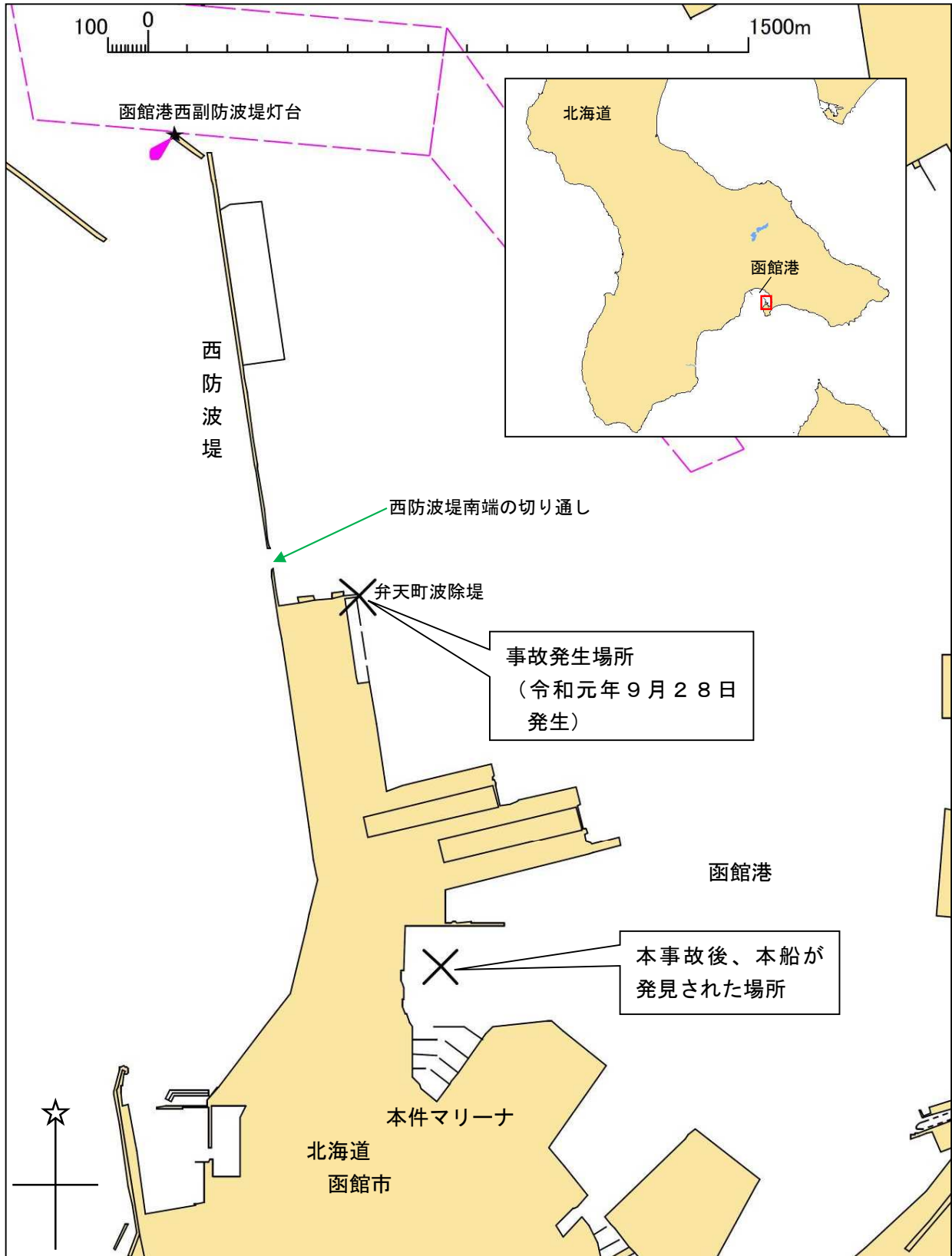


写真1 本船



写真2 本船の船首船底部の損傷状況

